

ヴィジョン

日本共産党

鎌倉みらい

公明党

責任を持った市政運営を

鎌倉のヴィジョンを考える
 会では、平成30年度の諸議案
 に対し、改革と未来への投資
 の観点から代表質問・特別委
 員会でただし、生ごみ減容化
 施設の予算に対しては、近隣
 住民の合意や広域処理の方向
 性が見えない中、予算を減額
 する修正案を提出しました。
 またそのほかの議案には全て
 賛成いたしました。

●安定的なごみ処理行政を

安定したごみ処理政策の実
 現のために、以下の4点を確
 認したうえで、今後責任ある
 提案をするよう求めました。

- ①今までのごみ処理行政の反
 省点の整理。②広域処理の方
 向性の確認。③審議会・専門
 家等の意見の傾聴。④近隣住
 民の理解をいただくこと。

●障がい者の支援を

障がい者の雇用に対する支
 援や障がい者の親や兄弟など
 に対する切れ目のない支援を
 求めました。

●子育て・教育の充実を

保育所のさらなる充実、産
 後ケア事業の展開などの充実
 を求めるとともに、放課後か
 まくらっ子の運営について
 は、地域の方々のご協力をい
 ただくよう要望しました。鎌
 倉版ROCKEY、外国語教
 育、プログラミング教育、イ
 ンクルーシブ教育など多様な
 学びの場をつくることや情報
 リテラシー教育などについて
 も指導することを求めました。

●高齢者の活躍機会創成を

人生100年といわれる時
 代になり、高齢者のマンパワー
 を雇用や交流などに活用して
 もらうことが重要です。生涯
 現役促進地域連携事業等が成
 果発揮するよう求めました。

●**コミュニティの活性化を**
 協働によるまちづくりや地
 域会議等の取り組みの拡大、
 昨年否決された市民活動推進
 条例等の制定によって、コ
 ミュニティーを充実させるこ
 と、また、市民サービスに影
 響を来さない支所窓口統廃合
 の手法を要望しました。

●**観光行政の充実を**
 オリジナルピクニック・パラリン
 ピックに向けた各種整備や外
 国人観光客に向けた対応の充
 実を要望しました。

鎌倉歴史文化交流館や日本
 遺産の認定について、効果的
 な活用を求めました。

また、課題も指摘されてい
 る民泊について、市民への苦
 情の対応や住環境を保全する
 支援を要望しました。

●**テクノロジーの活用を**
 科学技術等が発展する中、
 行政においてもこれらを有効
 に活用し、新設のIT政策課
 を中心とした事務処理の効率
 化や市民サービスの向上につ
 ながるよう求めました。

●**市庁舎整備等について**
 公的不動産の活用や本庁舎
 整備についての方針策定が、
 深沢整備事業との連携を図
 り、進捗状況に影響のないよ
 うな取り組みを求めました。

国の社会保障削減の防波堤として

国による社会保障の負担増
 と給付の削減が進められてい
 ます。生活保護基準の削減も
 他の制度と連動しているため
 低所得者の生活に影響しま
 す。鎌倉市でも、平均給与収
 入が10年間で約10万円減少し
 所得格差も広がっています。
 暮らしの実態をつかみ、市民
 生活を最大限支援すべきです。

●子どもの家(学童保育)の不 足と子どもひろばへの詰め

込み、子ども会館閉鎖問題
 学童保育を増やさず「放課
 後子どもひろば」に役割を回
 す方針に反対しました。子ど
 もひろばは学童保育と違い、
 施設の基準はありません。さ
 らに子ども会館を子どもひろ
 ばにすると条例上幼児等が使
 えなくなることや、将来廃止
 することに反対しました。

●高齢者福祉・障がい者福祉

国は、高齢者、障がい者な
 どの施策をひとまとめにする
 「我が事・丸ごと」地域づく
 り・体制の整備を進めてい
 ます。公が地域福祉から手を
 引きかねない仕組みづくりが
 鎌倉でも進められます。介護
 保険料の改定では、高額所得
 者の所得段階を増やせば低所
 得者への負担が軽減されるた
 め、値上げに反対しました。

●ごみ問題について

生ごみ減容化建設予算が突
 然計上されました。家庭系の
 生ごみを資源化することは賛
 成ですが、政策形成過程に問
 題があり、他会派とともに予
 算修正を行いました。

●北鎌倉隧道の安全対策

3月1日付「広報かまくら」
 で松尾市長は仮設トンネルの
 整備に関して、一日でも早く
 通行が再開できるよう取り組
 んで発表しました。平成30年
 度中に仮設工事を必ず実施
 し、計上した予算を執行され
 るよう強く求めました。

●「民泊」への対応について

民泊新法の施行に伴い、市
 独自の要綱の制定など、鎌倉
 におけるルール化の検討を求
 めました。

●深沢のまちづくり

新駅を前提としたまちづく
 りではなく、市民が納得する
 結論を求めました。

●就学前の入学準備金

小学校入学前の就学援助金
 支給の検討を要望しました。

●行財政改革・職員体制

技能労務職は10年前の半
 減。技術の継承を図る上でも、
 最低限の採用を求めました。

●公共施設再編・市役所移転

市役所移転は、最短で平成
 38年に整備予定ですが、住民
 合意は進んでいません。本格
 的な住民主体の検討機関をつ
 くり、時間がかかっても住民
 合意で進めるべきと要求しま
 した。

●平和行政について

平和都市宣言60年の節目と
 して、市長を先頭に全庁を挙
 げた取り組みで、市民・観光
 客に核兵器廃絶と平和アピ
 ルをせよと求めました。

松尾市政3期目初の予算編成、 大事な4年間

平成30年度予算は、松尾市
 政2期8年の懸案事項を解決
 していかなければならない、
 3期目初の重要な予算です。
 鎌倉みらいは、後期実施計画
 の重点事業と新規事業を中心
 に代表質問し、予算特別委員
 会ではさらにその詳細につい
 て審査・検証した結果、平成
 30年度一般会計予算の修正案
 に賛成、除く原案およびその
 ほか諸議案に賛成しました。

●将来を見据えたごみ処理施策

懸案となっている本市のご
 み処理行政は、長期にわたり
 迷走を続けています。新焼却
 施設建設が決まらない中、新
 規事業として今泉クリーンセ
 ンター跡地に「生ごみの減容
 化施設」計画が予算化されま
 した。予算提案で唐突に出さ
 れた施策であり、この計画に
 伴う課題解決と全体計画との
 整合性が明確でない中、果た
 して将来にわたる安定的な施
 策となり得るのか、現段階で
 は判断できないため、減額修
 正案に賛成しました。

●行財政運営について

新規事業として、市役所の
 業務にRPA(業務の自動化)
 の導入可能性調査を実施予定
 です。先進的な取り組みは評
 価するものの、活用法や課題
 を十分理解したうえで実施す
 べきと指摘しました。また、
 本庁舎の整備基本構想策定に
 ついては、十分な住民理解が
 必要であり、跡地の活用と同
 時に進めるべきとの意見を述
 べました。

●庁内横断的な防災の取り組み

平成29年4月に設置され
 た、庁内横断的な防災の取り
 組みである「鎌倉市危険斜面
 及び危険木に関する調整会
 議」を十分活用し、危険区域
 の情報共有を図り、さらには
 住民情報等を活用する仕組み
 づくりも今後必要ではないか
 と指摘しました。

●健康づくり事業の推進

本市では、平成28年3月に
 「鎌倉市健康づくり計画」を
 策定し、その一環としてアプ
 リや専用WEBを活用して生
 活習慣病の改善や健康寿命の
 延伸を図るICT活用健康づ
 くり事業を進めています。市
 民の健康増進に寄与するアプ
 リとして評価するとともに、
 しつかりと推進することをお
 願いしました。

●深沢地域整備事業について

深沢地域整備事業の基盤整
 備については、平成29年度中
 に事業スキームや新駅の在り
 方を明確にするとのこととし
 ました。しかし、いまだに明確に
 なっていない状況であり、現
 在の手法で本当にこの事業を
 前に進められるのかをただし
 ました。すでに遅れているこ
 の事業を一刻も早く前に進め
 るためには、市長自らリー
 ダーシップを取って、県や藤
 沢市との協議を急ぐべきであ
 ることを強く指摘しました。

市政に確かなビジョンと安全・安心を！

公明党鎌倉市議団は、生ご
 み減容化施設建設に関する予
 算を削除した修正予算および
 そのほか諸議案に賛成し、市
 民生活の安全・安心の向上を
 図るべきとしました。

●安定したごみ処理政策を

本市のごみ処理行政の混乱
 は、前行政計画の撤回による
 ものであり、8年越しの本年、
 将来的なビジョンを基に、新
 焼却炉建設・逗子市・葉山町
 との広域連携・生ごみ資源化
 施策の三位一体で考え、住民
 合意の原則にのっとり、一般
 廃棄物処理行政の安定化を図
 るべきとしました。

●行財政改革推進事業

公共施設再編事業において
 は、公共施設マネジメントを
 推進するとともに、野村総研
 跡地等が利用できない子育て
 支援団体や冒険遊び場利用者
 への対応と野村橋への早期対
 応を求めました。

●市民の健康と安心づくり

市民が日常楽しみながら健
 康アプリを活用し、健康増進
 が図れるよう継続活用すると
 ともに、未病センターについ
 ては、将来的には、青少年の
 保健衛生知識の向上を図るよ
 う、また、発達障害の早期発
 見につながる計測補助装置の
 導入等を図るなど、街のホッ
 トステーションとしての機能
 を充実させるよう要望しまし
 ました。

●平和推進事業について

平和都市宣言から60周年の
 本年、世代を超えて平和を希
 求する鎌倉市民の思いを大切
 に万代の平和都市の礎を築く
 平和推進事業を要望しました。

●歴史遺産との共生

鎌倉市歴史的風致維持向上
 計画を推進するための協議会

を主催し、本市全域にわたる
 歴史遺産と共生するまちづく
 りを目指し、各地域が連綿と
 つないできた歴史・文化を包
 含した事業の推進を求めまし
 ました。

●**防災と緑地維持管理事業**
 緑の維持管理は、防災力の
 向上の基に成り立つ事業であ
 り、市民の安心安全を守る樹
 林管理事業とするよう要望し
 ました。

また、総合防災訓練につい
 ては、子どもからお年寄りま
 で全員参加型の訓練とすべき
 であり、市民の防災意識の向
 上とともに災害を風化させな
 い今一重の取り組みを求めま
 した。